

No. 743

企業

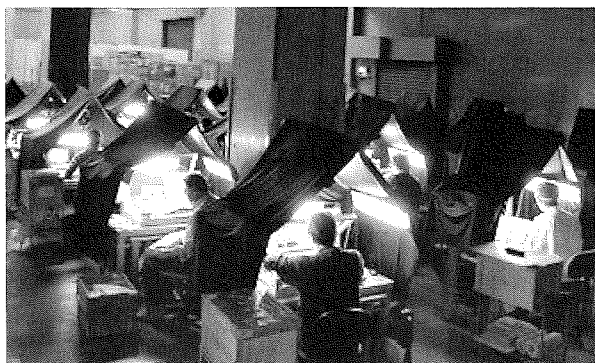
# zoom up

## 国際マイクロ写真工業社

官公庁で実績、  
貴重資料を低価格でデータ化

今回訪問した国際マイクロ写真工業社は、1962年に森松幹雄氏によって創業。長年にわたり各省庁や博物館、大学等が保有する古典書類、歴史的文献や貴重資料を中心としたデータ化サービスに特化し、外務省外交史料館、東京大学史料編纂所、防衛省戦史室など7機関に撮影スタジオを設置。事前の資料整理、撮影（デジタルカメラ、大判、赤外線、V字型）からマイクロフィルム作成、カラーネガ・ポジ作成、電子化サービスのほか、資料状態調査、複製、保存用品販売、公開・閲覧（ビューワー、タッチパネル等）関連まで幅広いサービスをワンストップで提供する。95年に現代代表の義喬氏が父の跡を継ぎ代表に就任してからは、情報・品質管理にも力を入れ、2008年までにISO27001、Pマーク、ISO14001、ISO9000Sを取得。「4つを取得しているのは約700社ある国内同業者のなかで当社を含め数社程度。また、アルバイトを含む全従業員と生涯にわたる機密保持契約書を取り交わしています」（森松社長）。

重要書物を扱うため撮影作業は原則1枚1枚すべて手で行うほか、官公庁からの大量受注に対応するために約40台のスキナーを保有。今後はこれまで実施してこなかった広告展開とともに民間企業向け受注の拡大を図る。価格も魅力的だ。



古文書などの貴重資料は1枚1枚手作業で行われる。  
官公庁相手に築いた信用と技術が強み

「各地域の古文書の電子化を進め地方創生にも貢献したい」と話す森松社長。各種フィルムのデジタル変換をオートメーション化させ、大幅な価格引き下げを実現した



「昨年、日本ではじめて各種フィルムのデジタル変換作業をオートメーション化したことで市場価格の半額から3分の1程度でのサービス提供が可能となりました」（同）。

パソコン普及前に作成された各種フィルムデータを保存する金融系企業、新聞社、出版社などデジタル化の検討に入っていないもの、業者選定や費用面で前進していない企業があれば当社サービス導入のメリットは大きいだろう。

「古来、日本は識字率が高く、これほど多くの古文書が保存されている国はないとされています。しかし、データ化保存されているのは全体のごく一部。時間経過に伴う劣化や自然災害、人災、戦争などによる消失・壊滅などからのリスク回避はもちろん、例えば地域の古文書などをデジタル化して広く多くの方に見てもらえれば地方創生にも繋がると思っています」（同）。

50年超の実績と“官公庁相手に築いた信用と技術”が当社の強み。媒体別の耐火金庫室も4室設置。今後は、自治体、企業向けサービスの需要拡大が期待される。

（取材・文／東京支社情報部 阿部 成伸）

### 会社概要

(株) 国際マイクロ写真工業社  
 T D B企業コード：982796460  
 東京都新宿区筈笥町4-3  
 電話03-3260-5931  
 森松義喬社長  
 設立：1963年10月  
 資本金：6000万円  
 事業内容：古文書・資料・フィルム等の電子化、記録の保存・活用  
 年売上高：約2億7000万円（2016年6月期）  
<http://www.kms.gol.com/>